



東洋学園だより

Vol.11

『東洋学園だより』は、東洋学園大学同窓会および東洋女子短期大学同窓会、東洋学園史料室(旧制卒業生)からの名簿提供(2022年10月28日現在)に基づいてお送りしております。

CONTENTS

辻中学長からのメッセージ.....	1
「自強不息」を応援! 学生の活躍と進化する大学/ 第30回フェニックス祭～郷郷祭り～.....	2
退任教職員から皆様へ/ 東洋学園の歴史.....	3
インフォメーション.....	4

東洋学園だより第11号 2023年1月31日発行 [発行・編集] 学校法人東洋学園 学生支援課 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL.03-3811-1072 E-MAIL.koyukai-info@tyg.jp

辻中学長からのメッセージ

「都心型スマート大学を目指して」

東洋学園の理事・評議員を経て、今春より学長に就任された辻中先生。
新学長としての所感や意気込み、今後目指す大学の姿について語っていただきました。



東洋学園大学学長
辻中 豊

大阪大学大学院法学研究科公法学専攻(修士)。博士(法学)京都大学。コーネル大学客員(フルブライト、ACLS)研究員。筑波大学人文社会系教授、副学長。東海大学政治経済学部教授、副学長。国際大学協会アジア代表理事(2012～16)。日本政治学会理事長(2014～16)。学校法人東洋学園評議員、理事を経て2022年4月より現職。

学長就任の前後の印象

2022年4月から学長に就任している、辻中豊です。在校生、同窓生、教職員の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、関東に居を移して36年余りになりますが、いまだに関西人として分類される人間です。大阪平野の真ん中で生まれ、大阪大学で学び、京都大学の先生方を始めとする関西の研究者と共同研究をし、学位(京都大学、論博(法学)政治学)を得ました。最初の職は小倉の北九州大学、そして数年後に筑波大学へ、さらに2年間コーネル大学で共同研究を行い、筑波大学に戻ったのち、さまざまな学部・大学院で教え、また大学院を立ち上げ(国際総合学類、社会学類、国際地域研究、現代文化・公共政策、国際日本研究など)、副学長を務めたのち、湘南にある東海大学に異動、ここでも副学長を務めました。

この間、国際大学協会(IAU、本部バリ)の理事や日本政治学会の理事長、文部科学省科学官等も務めました。そのため、世界の多くの大学人を知る機会があり、30以上の国々を訪れ、15ヶ国で市民社会の実態調査を行いました。

さて、東洋学園とは接点がなかった小生ですが、2021年秋から理事・評議員となり学長に着任しました。大阪人の私は毎日、とても新鮮な気持ちで出勤しております。

こうした背景のある私がなんらかの貢献ができるとすれば、さまざまな世界や国内の大学、公立、国立、外国、大型私立など、異なるタイプの大学の視点から、東洋学園大学を見ることができるとかと推察いたします。

面倒見のよさと生真面目さ

「時代の変化に伝える」「国際人を育てる」そして「面倒見のよい」大学という本学の3つの理念を拝見したとき、ご縁がなかった本学園が急に身近な

もの感じられたのを今でも覚えております。時代の変化への対応と国際人の育成は、筑波大学、コーネル大学、東海大学で私が格闘してきた教育目標でしたし、学生への面倒見のよさは、小生のモットーです。

しかし、実際に着任して今感じているのは、東洋学園こそ、小生が経験した内で最も面倒見のよい大学であり、学生をしっかり教育している大学ではないか、という点です。教授会や各種委員会の運営をみても、丁寧な議論、きめの細かく配慮されつつも要点のついた報告がなされています。教職員の皆さんの真摯で、熱心な仕事ぶりにいつも感心しています。

骨のあるユニークな教員

初年度の学長として何より心がけていることは、教職員の皆さんを知ること、直接会って、その言葉に耳を傾けることです。今年度中に機会を設けて、全員の教職員の声を直接聞きたいと思っています。これまでお会いした先生方の印象は、とても骨のあるユニークな教員が多いということです。これは東京都心にある大学ゆえの強みでは、と考えています。

都心型スマート大学としてのつながり

東洋学園は、都心の本郷キャンパスにリソースを集中した大学です。数年前までは流山キャンパスがあり、懐かしく思われる同窓生の方も多いため(野球場とテニスコートは現存)。この本郷キャンパスは小さいながらも魅力的で居心地がよいだけでなく、未来へとつながる広がりがある、スマート大学を目指したいと思っています。

本学の教職員や学生は、本郷キャンパスを拠点に、都内の多くの企業、団体、NGO、近隣社会や官公庁と積極的につながり、また共同でさまざまな活動を行っています。コロナ禍を超えて、最近で

は学外から多くのゲストも迎えています。

本学のホームページをのぞいていただくと、その一端がご理解いただけると思います。学生たちや教職員の幅広い活動を通じて、現代社会とのつながりや協働がご覧になれます。3800万人が居住する世界最大の東京都市圏は未来社会への「成長点」でもあります。当然ですが、良いこともまた課題も満載なのがメガロポリス東京です。

2026年、100周年に向けて

さて、大正デモクラシー期に創設された本学の前身、東洋女子歯科医学専門学校から数えて、2026年に本学は100周年を迎えます。自強不息の建学精神に基づき、幾たびも自己改革を経て本学は姿を変えてきました。今、都心型スマート大学として、さらに次の100年に向かって、一層の飛躍を遂げたいと考えています。その理念は、学生や市民によりそう、さまざまな知的なネットワークのハブであり、現場感覚を生かしたイノベーションを育む教育機関であると考えています。そのために、一層の皆様からのご支持とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



在学生と談笑する辻中学長

大学からのお知らせ

2026年11月、本学は創立100周年を迎えます。現在学内ではプロジェクトチームを立ち上げ100周年に向けた催し物などを企画しています。最新情報は大学ホームページや校友向けメールマガジン、東洋学園だよりなどで発信しますので、ぜひご覧ください。

大学の最新情報はホームページで!
東洋学園大学の「今」を随時更新。
【HP】<https://www.tyg.jp/>

メールマガジン配信サービスのご案内
校友の皆様にご参加いただける講座など、年4回発信。
【HP】<https://tgwb.tyg.jp/fr/koyukai/post-2.html>

お問い合わせ先
学生支援課 校友窓口

TEL 03-3811-1072 受付時間: 平日(月～金) 9:00～17:00

E-MAIL koyukai-info@tyg.jp ホームページ <https://tgwb.tyg.jp/fr/koyukai/>



「自彊不息」を応援！学生の活躍と進化する大学

2026年に100周年を迎える東洋学園は、その先の未来まで見据えて進化を続けています。学びやスポーツの環境を整備したり、「都心の大学」の強みを活かして産官学連携を活性化させるなどして、今後も学生たちの「自彊不息」を応援していきます。

「自彊不息」の精神で活躍する学生たち

コロナ禍でも前を向き 学生一人ひとりが躍進中！

日々コツコツと練習を重ねてきた硬式野球部が、今年ついに大躍進！東京新大野球連盟の春季リーグ戦で10勝0敗の快挙を成し遂げ、悲願の2部初優勝を達成しました。また、テニス部では小野海斗選手（3年）が全日本選手権で準々決勝に進むなど、数々の好成績を収めています。

個人では、ダンススポーツ日本代表選手の大西咲菜さん（3年）が国内外で活躍中。11月には国内最高峰の大会「三笠宮杯」ラテン部門で優勝、スタンダード部門で準優勝しました。

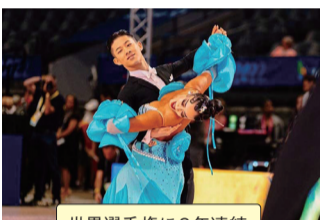
スポーツ以外で活躍する学生も多数。本学にはワースタ（ワーク・スタ

ディ・スタッフ）という制度があり、現在11人の在学が活動中です。学内インターンのような形で報酬を得ながら、大学の入試広報業務や地域広報誌制作に携わっています。

また、現代経営学部の有志学生が立ち上げたゴミプロ（日本一ゴミの出ない大学プロジェクト）も活発に活動中。外部とも連携し、ゴミ削減に向けた多彩な取り組みを行っています。



テニス部の小野選手はオープン大会での優勝も



世界選手権に3年連続出場している大西選手



働きながら学びたい学生たちがワースタとして活躍中！



SDGsに挑む学生集団「ゴミプロ」の活動が活発化！



硬式野球部が春季リーグ戦で悲願の2部初優勝を達成！

進化を続ける大学の今

施設整備や産官学連携を進め 学生たちの意欲をサポート

本学ではさまざまな施設整備を行っており、今年の春には1号館3階のEnglish Loungeをリニューアル。広さを1.4倍に拡張するとともに、デザインも一新しました。これまでは英語に特化した空間でしたが、いろいろな国の言語・文化が体験できる場へと発展させるべく、名称もGlobal Loungeへと改称しました。

さらに現在、東洋学園大学グラウンド（千葉県松戸市）をリニューアル中で、今冬に完成予定。クラブハウスも併設し、硬式野球部とテニス部の活動環境の向上を図ります。



「都心の大学」の強みを活かし 企業や専門機関と連携



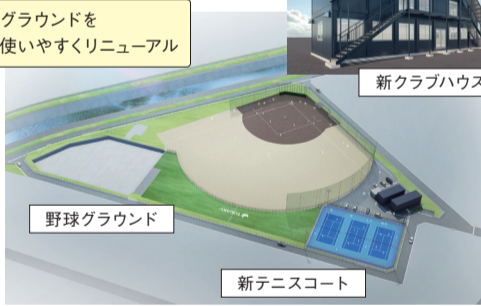
グローバルな交流の場 Global Loungeを整備！

学びの面では、「都心の大学の強みを活かした連携」に注力中。在学が豊富な経験を積めるよう、企業や専門機関、地域、他大学といった外部とのつながりを広げています。

なお、コロナ禍で停滞していた留学も再開し、秋学期からICP 8期生の8名がアメリカに留学。このほか、韓国、アメリカ、オーストラリアに長期留学中の学生もいます。



東京から世界へ！ 海外活動も続々再開



グラウンドを使いやすくリニューアル 新クラブハウス



野球グラウンド 新テニスコート

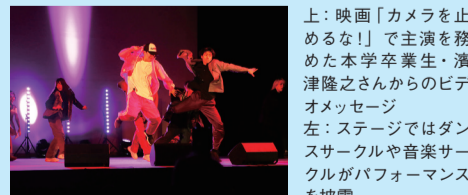
完成イメージ

第30回フェニックス祭～郷郷祭り～

30周年という節目の年に 3年越しの対面開催が実現！

10/15（土）、16（日）の2日間、学園祭「フェニックス祭～郷郷祭り～」を開催。学園祭の30回という節目の年に、初日はYouTubeでのオンライン開催、2日目は3年ぶりの対面開催というハイブリッド形式で行われました。

オンラインではよしもとお笑いライブや声優・俳優のトークショーを生配信し、視聴回数が6000回を超える盛況に。2日目の対面開催は、学生団体のステージやゼミ主催のゲーム、お化け屋敷などの企画が盛りだくさん。今井ゼミによる「カメラを止めるな！」上映&出演者トークショーでは、本学卒業生でもある主演の濱津隆之さんから届いたビデオメッセージの公開も。両日とも大いに盛り上がりました。



上：映画「カメラを止めるな！」で主演を務めた本学卒業生・濱津隆之さんからのビデオメッセージ
左：ステージではダンスサークルや音楽サークルがパフォーマンスを披露

田中菊子先生による講演会



フェニックス祭二日目の10/16（日）には、学園祭第30回を記念し、田中菊子先生による講演会を開催。田中先生の教員採用時のお話から、短大、大学変革期の苦労話、学生に対して抱き続けた熱い想いなどを伺いました。当日は東洋女子短期大学、東洋学園大学の卒業生も参加。「先生との思い出と共に初心のような気持ちに戻れました」「短大時代に教わったテニスを今でも続けています」などの声が寄せられました。講演会の模様を2023年3月31日までアーカイブ配信中 URL: <https://vimeo.com/771889346> パスワード: gakuensai



退任教職員から皆様へ

2022年度をもって退任予定の教職員から 校友の皆様へメッセージをお届けします。

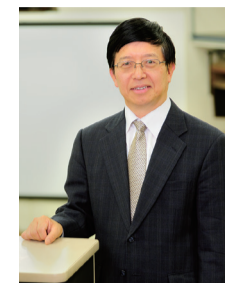


グローバル・コミュニケーション学部 坂本 ひとみ 教授

“I have a dream.”
——グローバル市民教育を目指して——

東洋女子短大に19年、学園大に17年、教職員の皆様、学生さん達に支えられて歩んできた36年間で、すべての方に深く感謝しております。外国語教育の究極の目的は、多様な民族が平和的な共存関係を築くこと、地球規模の課題を世界の人々と共に解決することにあると考えようになり、授業や研究で扱う対象も語学からグローバルな内容へと広がっていきました。東洋女子短大時代はネイティブ・アメリカン・セミナーを持たせて頂き、短大の学生のみならず、非常勤講師として教

えていた一橋大学や東大の学生も連れて、アメリカ北西部を旅したことが何度もあります。学園大に移ってからは児童英語教育ゼミを担当し、福島の小中学校でゼミ生達と授業をし、デンマークでの合宿も行いました。英語教育は早期に開始すればよいというものではありません。が、子どもにとっては、異文化を知り、日本の言葉や文化をよりよく理解する契機ともなり得ます。これからは児童英語教育の可能性を探索していく所存です。



グローバル・コミュニケーション学部 朱 建栄 教授

「縁」と「やり甲斐」

私は東洋学園と縁があるよう。上海から来日してからの最初の専任先であり、大学創設時に入り、そしてここで定年を迎えた。学園創設者の宇田尚先生は儒学者で、その東洋思想に感銘を受けたところがある。まだ貧しかった頃の中国農村の小学校に「伸びしろ」が大きい。その成長を手伝うことに教え甲斐があった。多くの教員は卒業後社会人として活躍し、その便りに接すると心の底から嬉しい。大学レベルでは珍しい中国語スピーチコンテスト「鑑真杯」の創設と持続に関わったことも思い出。自分が何かに巻き込まれ、中国で「行方不明」になった際、江澤

振り返れば東洋学園は自分にとって「日本」であり、人生そのものだ。感謝の気持ちを表した。この大学の教育にやりがいも感じた。東大、早稲田とは別世界だが、温もりがある。ある先輩学部長の言葉を今でも覚えている。学生の十人中、八人の成長は教育次第だ。その意味で本学の学生に「伸びしろ」が大きい。その成長を手伝うことに教え甲斐があった。多くの教員は卒業後社会人として活躍し、その便りに接すると心の底から嬉しい。大学レベルでは珍しい中国語スピーチコンテスト「鑑真杯」の創設と持続に関わったことも思い出。自分が何かに巻き込まれ、中国で「行方不明」になった際、江澤



グローバル・コミュニケーション学部 佐藤 泉 教授

文化人類学を英語で教えられる人を探している、アメリカ研究のゼミが持っていたという話で応募させて頂いたのが新設の東洋学園大学だった。英検1級で優秀賞という履歴のおかげ、東洋女子短期大学欧米文化学科に初めは非常勤で採用はしたが、学科長の木内信敬先生と宇田正長副学長先生（当時）に2年間の預かりで採用して頂いた。実は、その2年間の間に他大学の学生便覧を取り寄せ、学会でも聞いて回り、当時の田中菊子先生、谷本信先生、宮地治先生、遊佐礼子先生などと新設の四年制大学の学則作りを午後5時過ぎからの会議で行った。5時までは短大の教員として担任も受け

持った。一緒に短大に入れ、人文学部開設と同時に移られたのがイタリヤのFAOから戻られた横山和子先生で教務関連の学則作りに携わられた。一期生だけでなく、二期生、三期生の人達も新しい大学を作るという気持ちにあふれていたように思う。新しいクラブやサークルを作ること。「自治会」ではなく「学生会」にしたこと。現行の校歌は、現代経営学部開設で、本郷キャンパスの歌詞を取り込み変更がなされたが、元々は当時の学生たちが応募した複数の歌詞を基に作られたものだった。大学は何をしてくれるのかではなく、自分が大学にどのような貢献ができるのか、学生諸君はあらためて考えてほしい。最後にかつての同僚、教職員、同窓生の皆様の御健勝を祈る。

事務局 金子 光雄 部長



東洋学園一筋43年、総務・教務・学生・就職・法人本部・エクステンション等に勤務いたしました。定年退職を控え身の整理をしていたところ、本学就職時に提出した履歴書の写真が出てきました。卒業生、特に短大OGの皆様は近影をご覧いただいても「誰？」と言われるのは間違いないほどに劣化しております。そこで今回は往年の写真をご笑覧いただくことにしました。何となく記憶に残っております。短大・四大を通じ田中菊子先生・大西泰斗先生のもとでバレーボール部コーチを務め、インカレ出場に導いたことも良い思い出です。多くの卒業生の皆様との出会いは私の一生の宝となりました。皆様の更なるご活躍と益々のご発展をお祈り申し上げます。

東洋学園の歴史 第8回 30回の大学祭と大学30周年

東洋学園史資料 1号館9階 月～金（平日）10:00～16:30 <http://www.tyg-archives.jp>

2020年4月に1号館9階へ移転した史料室は、21年11月から陶片壁画フェニックス・モザイク完成60周年を記念した「建築家今井兼次の東洋学園大学（旧東洋女子短期大学）フェニックス・モザイク」を公開しました。現在は「30回の大学祭と東洋学園大学の30年」と題し、学園祭を通じて大学の30年を振り返るテーマ展を公開しています。



前回の展示、正面はスライドショー。今回は大学の30回を振り返る映像を流しています。

東洋学園大学は1992（平成4）年4月、千葉県流山市鮫ヶ崎の流山キャンパスで開学しました。93年に第1回大学祭を挙行、「で

きたての大学を地域の方に知ってもらおう、開かれた学園祭にしよう」（初代学生会長鎌倉貴氏）。これに基づき第3回で鮭鱈祭（ひれひれまつり）と命名、地域に根ざし、そこにある大学と自分たちを知って欲しいという希求が込められています。今日では大学の地域貢献が当然になりましたが、1期生が掲げたコンセプトは先進的でした。地域との共生と地名を重ねるネーミングは今日に受け継がれています。



第1～3回パンフレット。展示では歴代のパンフレットを公開しています。

その後の30年の間に学部学科の改組新設があり、キャンパスは学部別から学年別に

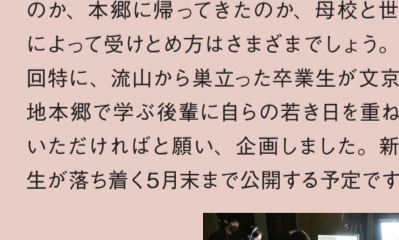
（流山1・2年／本郷3・4年と大学院）、さらに形を変えた学部別を経て全学部都心一貫へと変遷しました。その結果、大学祭の形態、名称もキャンパス（学部）別の開催（2002～06）、学部横断の鮭鱈祭（07～15）、本郷に移ってフェニックス祭・郷郷祭り（プレ15・正式16～）へと変化を遂げました。これに東洋女子短期大学フェニックス祭（本郷1964～2002／流山03～05）も絡み、辿ってきた道は意外に複雑です。



2008年第16回、盛時の流山キャンパス鮭鱈祭。

目まぐるしい変化にも学生は若さで柔軟に対応し、初期のコンセプトを守りつつ新

たな形を模索し続けています。直近は新型コロナウイルス感染症の流行によって2020年第28回、21年第29回をオンライン開催として、デジタル時代の大学祭を実現しました。22年第30回は10月15日オンライン、16日は3年ぶりの対面開催でした。30年で世界も本学も大きく変わりましたが、偶然この学校で席を並べた仲間と一つのことになり、流山から巣立った卒業生が文京の地本郷で学ぶ後輩に自らの若き日を重ねていただければ頼み、企画しました。新入生が落ち着く5月末まで公開する予定です。



コロナ1年目の2020年、オンライン大学祭を成功させました。

東洋学園大学同窓会より
開学30周年の寄付を拝受

東洋学園大学同窓会より、大学開学30周年にあたり教育振興資金として500万円のご寄付を賜りました。11/12(土)の感謝状贈呈式では、本学1期生で同窓会会長を務める枋尾健氏へ感謝状を贈呈。同窓生の皆様から大学および在学生に対する温かなご支援をいただき、心より御礼申し上げます。贈呈式では、愛知太郎理事長が枋尾会長より寄付目録を受け取り、感謝状と記念盾を贈呈いたしました。また、愛知理事長、辻中理事長がご支援への御礼を述べ、大学の近況をお知らせしました。



写真左より愛知太郎理事長、同窓会会長の枋尾健氏、辻中豊理事長

東洋学園大学同窓会 枋尾 健会長のコメント

母校開学30周年を記念して、「東洋学園大学教育振興資金」に寄付させていただきました。ささやかな額ではございますが、今回の寄付が母校の教育、研究におけるさらなる質の向上に寄与し、そして何よりも勉学、課外活動に励む在学生の学生生活をより実りあるものとする、その一助となれば幸いです。学部再編、本郷キャンパスへの機能集約後、落ち着く間もなく始まったコロナ禍、さらには対岸の火事とは言えないウクライナに

おける戦火、物価の急激な上昇など、時代の激流は、母校、在学生の皆さん、そして保護者の方々を取り巻く環境に大きな影響を与えているものと推察しております。卒業生団体である私どもとしてはその主旨である「母校、在学生の後援」を果たすべくできる限りの努力を今後も続けて参る所存です。どうぞ今後ともよろしくお願いたします。開学30周年を記念して。

2022年度新設
東洋学園大学同窓会奨学金

2022年、新たな給付型奨学金制度として東洋学園大学同窓会奨学金が設立されました。採用された学生からのお礼のコメントをご紹介します。「学校に通うためにかかる費用は莫大であり、厳しい状態が続いていますが、今回同窓会の皆様のご厚意による奨学金を頂き、私自身余裕が生まれました。皆様の支援がとても励みになっています。卒業生の皆様へ、心から感謝申し上げます」(現代経営学部2年 品田 憲一郎さん)



東洋学園大学同窓会からのお知らせ

2022年度は母校開学30周年に当たる記念すべき年でもあり、コロナ禍以降見合わせていた会報発行、定期的な異動調査を実施いたしました。なお、異動調査につきましては2022年秋にお送りした会報に表示のQRコードのほか、本会HP(https://www.tgual.jp/)からも随時受付中です。本年度が対象となっていない方も何かしら変更がございましたらご活用いただければ幸いです。お預かりした個人情報は、セキュリティ対策に万全を期した上で管理しております。コロナ禍に戦争、物価高、まだまだ危機的状況は続きます。すべての東洋学園に関係する皆さま(学校法人東洋学園、東洋学園大学、東洋女子短期大学、東洋女子歯科医学専門学校、東洋高校、すべての卒業生、教職員、教職員OB)のご無事とご活躍をお祈りしております。

お問い合わせ先
東洋学園大学同窓会室(原則毎週金曜日)
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
【TEL】03-3811-1820 【HP】http://tgual.jp/



東洋女子短期大学同窓会からのお知らせ

会員の皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。コロナ禍のため、同窓会活動は、今年度も休止して参りました。しかし、社会は徐々に以前の活況を呈しつつありますので、同窓会も活動再開の日に備えて、会報に載せるメッセージや写真などを集めておきたいと思っております。また、2026年に東洋学園は100周年を迎えますが、学園の歴史を物語る上でも、同窓生のメッセージは貴重な足跡であり宝でもあります。どうぞメールが郵送でお寄せください。住所・氏名の変更なども下記にお願い致します。

お問い合わせ先
東洋女子短期大学同窓会
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3東洋学園大学内
【FAX】03-3811-5102 【E-mail】dosokai@ec.tyg.jp

公開講座について

東洋学園大学では「開かれた大学」を目指し、研究・教育の蓄積を皆様と共有するべく、校友の方にもご参加いただける公開講座をご用意しています。

各講座の詳細・最新情報はホームページで!



各種証明書の発行について

～2018年4月2日より、郵送先・申込窓口が本郷キャンパスに統合されました～
各種証明書(卒業証明書、成績証明書)は、郵送または窓口での申し込みが可能です。いずれも申し込みに必要な書類等がありますので、事前に本学ホームページにてご確認の上お申し込みください。お申し込みは全て本郷キャンパスになります。

所属
●大学 卒業生 ●大学院 修了生
●短期大学 卒業生/短期大学専攻科 修了生
郵送先・申込窓口・受付時間
住所:〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
東洋学園大学 教務課 証明書係
受付時間:月～金曜9:00～16:30、土曜9:00～12:30
https://www.tyg.jp/graduate/certificate.html
*個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。



入試情報

●入学金免除制度
本学園卒業生ご本人、在学生及び本学園卒業生のご親族(二親等以内)が本学へ入学される場合、入学金を免除します。※人数の制限はありません。
●編入学、大学院入試
大学への編入学(3年次)や大学院、科目等履修生制度など、校友の皆様にも学んでいただけるよう、キャリアアップ、リカレント教育の場を設けております。大学院では所定の単位を収め修了することで、FPの国際資格「CFP」の受験資格を取得できます。

お問い合わせ先
入試室
【TEL】0120-104-108(フリーダイヤル)
受付時間:平日(月～金)9:00～17:00/土曜日9:00～13:00
※大学の定めた休日を除く
【E-MAIL】nyushi@of.tyg.jp 【HP】https://life.tyg.jp



東洋学園大学の教育振興資金へのご協力をお願い

学校法人東洋学園は1926(大正15)年に建学し、在学生のご父母・保証人や、卒業生各位のお力添えを賜り、高く掲げた理想の教育の灯を消すことなく、今日を迎えることができました。そして来る2026年には創立100周年を迎えます。本学は①時代の変化に応える大学、②国際人を育てる大学、③面倒見のよい大学、の理念に基づいて教育と研究の質を高め、学部の垣根を越えた交流や支援体制を充実させてきました。しかし、近年はコロナ禍への対応としてICT設備のさらなる拡充、換気能

力増強を含めてキャンパスの改修が緊急かつ重要な課題となっております。

ご父母・保証人の方々からは学納金をお納めいただき、国からも補助金をいただいておりますが、創立100周年に向け、教育内容の充実、修学環境の一層の整備を図るため、格別のお力添えを切にお願い申し上げます。

学校法人東洋学園
理事長 愛知 太郎

ご寄付に関する詳細はホームページ(右記QRコード)をご確認ください。

https://www.tyg.jp/guide/toyo/bokin.html



東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名(敬称略・50音順)

(2021年4月～2022年3月までにご寄付頂いた方) 法人/団体(3法人/2団体):株式会社SIXINCH.ジャパン、株式会社ワークアカデミー、一般財団法人ユーラシア財団from Asia、東洋学園大学同窓会、本郷宮崎坂太鼓 個人(8名):打田 美代子、小黒 敬三、加川 晶子、楠 誠晃、斎藤 憲孝、鈴木 喜久江、橋本 美奈子、山本 寛之
他に氏名掲載を許諾された方以外の寄付者:法人/団体(5法人)、在学生・卒業生等を含む個人(46名)